

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和3年度病害虫発生予報第5号(8月)
令和3年度病害虫発生予察注意報第7号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和3年度病害虫発生予報第5号(8月)

令和3年8月3日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は平年並	±
	紋枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白葉枯病	多い	尾張地域	7月下旬の発生量は多い	+
		平年並	他地域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	多い	県全域	7月下旬の発生量は多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	セジロウンカ	平年並	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並 飛来予測回数は多い	- ± +
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 飛来予測回数は多い	± ± +
ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は平年並	- ±	

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬の本田での発生量は平年並 7月下旬の水田畦畔での発生量が多い 予察灯における誘殺数は平年並	± + ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の被害株率はやや少ない	－
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	－ ±
	コブノメイガ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	+ +

・防除対策

[イネ・白葉枯病]

本日発表の「イネ白葉枯病情報第2号」を参考にしてください。

[イネ・ニカメイガ]

7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、ニカメイガの被害株率は3.68%（平年0.13%、前年0.07%）と過去10年で最も多い状況です。発生が多いほ場では、パダンSG水溶剤、ディアナSCなどで防除しましょう。

[イネ・トビイロウンカ]

本日発表の「ウンカ類情報第5号」を参考にしてください。

[イネ・斑点米カメムシ類]

本日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参考にしてください。

[ダイズ・ハスモンヨトウ]

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

[ダイズ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

7月下旬に県内52地点155ほ場で実施した巡回調査において、イネいもち病（葉いもち）の発病株率は平年並ですが、一部発病株率が高いほ場があります。また、稲武では、7月16日から8月2日までに感染好適日が4回確認されています。既に葉いもちが上位葉まで発生している場合は、穂いもちに移行するおそれがあるため、注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は高い	－ +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± +
		平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± +
	ナシヒメシシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	やや多い	西三河地域	第1世代幼虫による被害果率は西三河地域でやや多い	+
		平年並	他地域	第1世代幼虫による被害果率は西三河地域以外では平年並	±
コナカイガラムシ類	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	-	
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数は平年並	±
				7月下旬のヒノキ球果量は平年並	±

・防除対策

[ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日や6月25日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第3号」を参考に防除しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第4世代	7/24	7/23	7/20	7/19	7/24	7/25	7/22	7/23	7/29	7/22	第3世代	7/31
第5世代	8/10	8/9	8/5	8/5	8/10	8/11	8/8	8/9	8/16	8/8	第4世代	8/21
(前年)	8/15	8/13	8/9	8/9	8/14	8/15	8/14	8/13	8/19	8/12	(前年)	8/21
前年差	5日早	4日早	4日早	4日早	4日早	4日早	6日早	4日早	3日早	4日早	前年差	±0
第6世代	8/27	8/27	8/22	8/23	8/28	8/29	8/25	8/26	9/3	8/26	第5世代	9/15

各地のアメダス平均気温から予測（第4世代から第6世代まで）。

8月2日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

※稲武については、第3世代から第5世代までの予測。前年ピーク日と前年差は第4世代。

[ナシ・ハダニ類]

ダニコングフロアブルやコロマイト水和剤などで防除しましょう。

[カキ・カキノヘタムシガ]

サムコルフロアブル10やフェニックスフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

ブドウべと病がやや多い状況です。早期落葉の防止や次作の越冬源量を減らすため、収穫終了後も防除を実施しましょう。

果樹カメムシ類のヒノキ林での生息状況や離脱時期の詳細は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参考にしてください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	+
	シロイチモジヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
イチゴ	炭疽病	多い	県全域	7月下旬の発生量は多い 8月の気温は高い 8月の降水量はほぼ平年並	+
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
				8月の気温は高い	+

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

定植後、幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルやヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

[イチゴ・炭疽病]

本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

[野菜共通・ハスモンヨトウ]

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

キャベツでは、セルトレイ育苗時はプレバソフフロアブル5などのかん注処理、定植後はマッチ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのコナガは、フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い状況なので、今秋作の育苗においては特に注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。また、ハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほどハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほどは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数が多い 8月の気温は高い	+
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+

・防除対策

[キク (露地) ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キク (露地) ・ハダニ類]

コロマイト水和剤やダブルフェースフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台 7月29日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

[降水量] 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

[日照時間] 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%